

所属集団の判定について

- 「遺骨収集事業及び事業実施体制の抜本的な見直し」において、DNAによる所属集団の鑑定は、①WEB上のデータベースを参照したDNA分析、②次世代シーケンサによるSNP分析の2段階で行うこととしている。
- ①については、STR型を基本とした分析(Y-STR、ミトコンドリアDNA)を行い、国際的に利用されているWEB上のデータベース(YHRD、EMPOP)を参照し、日本人の遺骨であるかを判定することとしている。この方法では、アジア系、ヨーロッパ系、アフリカ系の分類は可能であるが、それ以上の分類については、困難な場合が多い。
- ※別添2のカザフスタンの遺骨で日本人の蓋然性が低いとされた2検体については、この方法でヨーロッパ系とされたもの。
- ②については、次世代シーケンサを用いて、多数のSNPを解析することで、①で判定できない場合に更に詳細に遺伝的な集団の分類が可能とされるもの。
- ①、②において、日本人と判定する基準については、所属集団判定会議において議論することとしている。
- 第1回所属集団判定会議においては、日本人と判定する基準についての整理すべき事項を示し、昨年8月に検体を採取したカザフスタン埋葬地の遺骨のDNAデータ等を資料として提示し議論を行った。判定基準については引き続き議論することとしており、カザフスタンの14検体についても、判定結果が示されたものではない。